

Ⅲ 環境を創る（活動）

先人が守り育ててきた福井の美しい自然環境や街並み景観は、私たちの子や孫に引き継ぐべき貴重な財産です。里地里山などの自然や生活環境を保全するとともに、街並みの景観を磨くことにより、次の世代に引き継ぐ美しい風景をつくり出します。

また、日本最大のクリーン・エネルギー供給地である福井の強みを活かし、最先端のエネルギー研究開発や人材育成を推進するとともに、モデルとなる「低炭素の街」を実現し、環境・エネルギー分野においてアジアをはじめ世界に貢献します。

そのために、美しく豊かな福井の環境と景観の保全・創造（美しい「福井の風景」創造）、クリーン・エネルギーを活用した最先端の低炭素化社会づくり（環境先端の基盤づくり）を進めます。

Ⅲ－1 美しい「福井の風景」創造

環境は私たちの生活を取り巻き、豊かな暮らしの土台となるものです。環境は人と自然との関係ですが、同時に人と人との関係を反映するものです。つながりの残る地域には、美しい環境や景観が育ちます。このような観点に立ち、これからの10年、福井の美しく豊かな自然環境と景観を守り育てていきます。

福井の豊かな自然環境は、将来にわたって価値を生み出す大切な「自然資本」です。海・山・川・湖が美しく配された福井の「箱庭の自然」を私たち自らの手で守り育て、子どもたちのふるさとへの誇りを育てていきます。

江戸末期から明治期に日本を訪れた外国人が「おとぎの国」のようだと賞賛した日本の美しい街並みは大きく損なわれてきました。今後、橋や公共建築物など多くの社会資本の老朽化が進み、修繕や更新が必要となる中、県民の意見を集め「景観創造型の街づくり」を推進します。

「福井の良き自然環境」と「福井の農村と街のたたずまい」を守り育てることによって、美しい「福井の風景」を創造していきます。

（1）多様な環境の保全活動

（2）次代に残す農村と街のたたずまい

(1) 多様な環境の保全活動

- 福井の各地域では、無農薬農法や「ふゆみずたんぼ」、「水田魚道」などを普及させ、人と生き物の双方にとって良好な田園環境の再生を進めてきました。この結果、滞在する水鳥が大幅に増えるとともに、コウノトリが3か月以上にわたって滞在するなど、地域の自然環境を守り育てる活動の成果が表れつつあります。

私たちは、自然環境を次世代に引き継ぐべき貴重な「自然資本」であるという意識を共有し、福井の美しい自然を守り育てる地域ごとの多様な環境保全活動を、県内全域に広げていきます。

- コウノトリ水田、中池見湿地、三方五湖をはじめ、福井が守っていくべき多くの地域を生物多様性の「ホット・エリア」に指定し、地域住民や企業の自主的な保全活動を市町とともに応援します。

- 近年の温暖化現象や山に人が入らなくなったことなどにより森林本来の機能が低下し、イノシシやシカなどの鳥獣被害が増加するとともに、山崩れなど災害発生の危険性が高まっています。市町などと連携し、間伐など山ぎわの整備、緩衝帯・防護柵の設置、個体数の調整など中山間地域を中心とする農山部の住民生活を守る鳥獣被害対策や災害に強い森づくりを進めます。

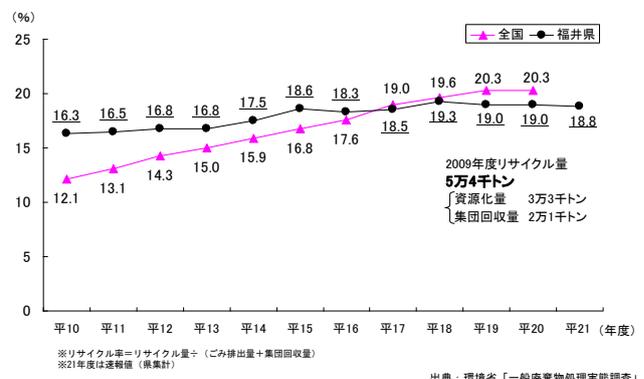
- 河川は、多くの生物の生息空間であり、また地域住民の憩いとやすらぎの場としても重要な役割を果たしています。このような河川の役割と周辺の利用状況に配慮しながら、多種多様な生物が生息しやすい「多自然川づくり」を進めます。

また、海辺の侵食被害から人の生活空間を守るとともに、福井独自の海辺の景観や生物の生息環境を保全するため、砂浜の回復などを考慮した侵食対策を進めます。

- 県民一人ひとりのごみの排出量は減少傾向にあるものの、県全体のリサイクル率は全国平均を下回っています。私たちは廃棄物を大量に排出するライフスタイルから、良いものを大切に長く使うライフスタイルに転換していきます。

「3R（リデュース・リユース・リサイクル）運動」によるごみの徹底した減量化、食品廃棄物の堆肥化や堆肥を活用した農作物生産などを促進し、「環境」と「地域経済」が両立する地域循環システムをつくります。

福井県のリサイクル率の推移



(2) 次代に残す農村と街のたたずまい

- 福井の自然や風土、県民の日々の暮らしの中で形づくられた農村と街のたたずまいもまた、次の世代に引き継ぐべき貴重な財産です。各地域の特色ある景観の価値を再認識し、県民、企業、市町、県が協力し高めていきます。

「伝統的民家群保存活用推進地区」を指定するなど、古き良き福井の伝統的民家や街並みの保存を進めます。

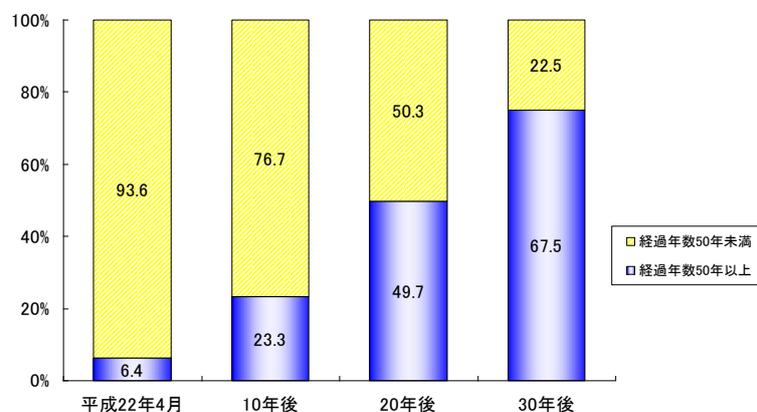
- 県民一人ひとりが周囲の景観に配慮した住まいや街並みなどを学ぶ「住教育」の機会を広げ、それぞれの地域の特色を活かした「住風景」や「街並み景観」をつくり出していきます。

- 高度成長期に整備された橋や建物などのインフラが、今後集中して耐用年数を迎えます。こうした社会基盤は地域の景観を形成する重要な要素です。

社会基盤の多くが修繕・更新の時期を迎えるこの機会を好機ととらえ、市町と県が連携して、地域の景観や風景に配慮した社会資本の保全更新プランを策定し、「景観調和型公共工事」を計画的に推進します。

また、公共施設への案内看板を削減するなど、カーナビゲーション時代に対応した景観づくりを進めます。

福井県における経過年数50年以上の橋りょうの割合の推移



出典：福井県土木部資料

Ⅲ－2 環境先端の基盤づくり

グローバル化が進む中、温暖化防止をはじめとした地球環境保全への具体的な行動を、世界規模で加速する必要があります。

福井の嶺南地域にはさまざまなタイプの原子力発電所が集中立地し、二酸化炭素（CO₂）を排出しないクリーン・エネルギーを供給する日本屈指の「環境貢献地域」であり、原子力・エネルギー分野において最先端の研究開発と人材育成を進めています。

こうした技術・人材の集積を活かし、原子力・エネルギー分野における技術開発と人材育成、クリーン・エネルギーを活かした最先端の街づくりなど、経済成長に伴い環境悪化が懸念されるアジアの模範となる先進施策を推進することによって、世界の共通課題の解決に貢献します。

（1）エネルギー技術開発と人材育成

（2）低炭素の街づくり推進

（1）エネルギー技術開発と人材育成

- 「エネルギー研究開発拠点化計画」（平成17年3月策定）に掲げる「安全・安心の確保」、「研究開発機能の強化」、「人材の育成・交流」、「産業の創出・育成」の4つの柱に基づき、原子力・エネルギー分野における最先端の研究開発と人材育成を進め、国際的な拠点づくりをめざします。
- レーザーや電子線など原子力関連技術を活用した産学官の共同研究を進め、福井の新産業を創出します。また、原子力・エネルギー関連企業の誘致など、電源立地地域としての特性を最大限に活かした産業の育成や集積を進めます。
- さらに、国際的な研究施設・機能を集積し、国内外から優秀な研究者、技術者、学生などが集う拠点づくりを進めることによって、アジアにおける原子力の安全技術の向上と人材育成に貢献します。

(2) 低炭素の街づくり推進

- APECエネルギー大臣会合の開催地として低炭素化社会をめざす「福井宣言」の趣旨を引き継ぎ、クリーン・エネルギーの普及を促進します。
- 県民自らが環境への貢献を生活レベルで実感し、また福井を訪れる多くの人びとに新しい街づくり、地域づくりのモデルとして模範にしてもらえるよう、「エコ・エネルギー・コリドール（回廊）」プロジェクトを市町とともに推進します。

特に、原子力発電所が立地する嶺南地域を中心に、エネルギー研究開発拠点化計画がめざす産業化とともに、クリーン・エネルギーを核とした最先端の住み良い街づくりを進めます。
- 産業・運輸部門、家庭部門における温室効果ガス排出量を削減します。

また、一世帯当たりの自家用乗用車の保有台数（2,042台／世帯、平成21年全国消費実態調査）が全国3位の福井ですが、ハイブリッド車や電気自動車も徐々に普及（世帯当たりの普及率2.6%、全国6位、平成21年全国消費実態調査）しています。今後、電気自動車の普及とそのための基盤整備を進めていきます。

さらには、脱マイカー運動や環境にも健康にもやさしい自転車への乗り換え運動などを県民運動として進めます。
- 子どもたちへの環境・エネルギー教育の充実、地球温暖化ストップ県民運動「LOVE・アース・ふくい」の展開などによって、「ゼロカーボンライフ」を広げていきます。

